

～もののあはれ～ 下期

2023年11月11日(土)～26日(日) 10:00～18:00 ※最終日16:00まで ※木曜休廊

花



- | | | |
|-----------------------|------------------|---------------------|
| 1 安藤由香「伸びる」 | 6 鈴木靖代「届くかな？」 | 11 橋本絵里奈「あの日のぼくら」 |
| 2 上村光「小瓶とポピー」 | 7 高田咲恵「夕焼ける」 | 12 福村飛鳥「ルリマツリ」 |
| 3 大島亜弓「凜」 | 8 田中香里「神託」 | 13 宮田佳子「con」
敬称略 |
| 4 北村典子「Mariatheresia」 | 9 出口潮「サボテンの花」 | |
| 5 杉野郁「きおくれエチュード」 | 10 長野聖司「calming」 | |

物の哀れ (読み)ものあわれ

もの【物】の哀(あ)われ

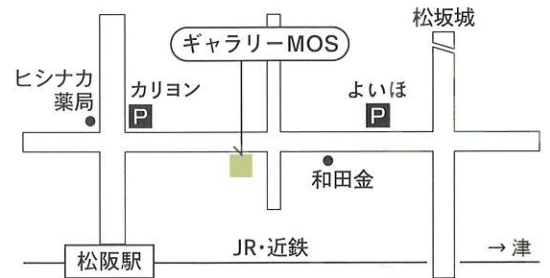
- [一] 物事にふれてひき起こされる感動。多くは「おかし」「おもしろし」などの知的興味やはなやかな感覚とは違った、しめやかな感情・情緒についていう。
- ① 人の心を、同情をもって十分に理解できること。人情の機微のわかること。また、その人情、愛情など。
※土左(935頃)承平四年一二月二七日「楳取、ものあはれもしらで(略)はやく往なんとて」
 - ② 物事にふれて起こる、しみじみとした回顧の感慨。
※宇津保(970-999頃)内侍督「よろづ物のあはれなむ思ひいでられ、昔の人の声などおもほえ」
 - ③ 物事や季節などによってよび起こされる、しみじみとした情趣。折からの感興。
※拾遺(1005-07頃)雑下・五一一「春はただ花のひとへに咲くばかり物のあはれは秋ぞまされる(よみ人しらず)」
 - ④ 何かに深く感動することのできる感じやすい心。情趣や風流を理解し感じとることのできる情緒的教養。
※枕(10C終)一三五「清範、講師にて、説くことはたいと悲しければ、ことにものあはれ深かるまじき若き人々、みな泣くめり」
 - ⑤ 悲哀や同情を感じさせるような気の毒なさ。
※浮世草子・好色一代男(1682)四「物(モノ)のあはれをとどめしは、去大名の、北の御方に召つかはれて、日のめもついに、見給はぬ女郎達や、おはした也」
- [二] 本居宣長が提唱した、平安時代の文芸の美的理念。外界である「もの」と、感情を形成する「あわれ」との一致する所に生ずる調和した情趣の世界を理念化したもの。自然・人生の諸相にふれてひき出される優美・繊細・哀愁の理念。その最高の達成が「源氏物語」であると考えた。
※紫文要領(1763)上「これすなはち物語は、物の哀をかきしるしてよむ人に物の哀をしらすといふ物也」
- [補注] 「あはれ」は、古くは感動詞として、喜・怒・哀・楽のすべてにわたって発せられる言葉だったが、「もの」がつくと、「ものあはれ」も「ものあはれ」も、「哀」に限定されるようになる。

出典 精選版 日本国語大辞典精選版 日本国語大辞典について



「本居宣長四十四歳自画自賛像」
(本居宣長記念館収蔵作品)

オンラインでの展示、販売も同時開催します。
こちらからご覧ください。



■松阪駅西口から徒歩7分

松本紙店

〒515-0083 三重県松阪市中町1870 松本紙店2階
TEL:0598-21-0603



www.matsumotokamiten.com